

岡山県感染症週報 2012 年 第 46 週 (11 月 12 日～ 11 月 18 日)

12 月 1 日は『世界エイズデー』です。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 46 週 (11/12 ～ 11/18) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 44 週 2 類感染症 結核 4 名 (20 代 女 2 名、60 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
第 45 週 2 類感染症 結核 4 名 (50 代 男 1 名、60 代 女 1 名、70 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 男)
第 46 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 男)
4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (80 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

- 感染性胃腸炎は、患者がさらに増加しました。
岡山市の幼稚園で、感染性胃腸炎による学級閉鎖がありました。(11 月 12 日)
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、患者が増加傾向です。
- インフルエンザは、県全体で 4 名の発生がありました。
- RS ウイルス感染症は、減少しました。

1. 12 月 1 日は『世界エイズデー』です。『“AIDS”GOES ON… ～エイズは続いている～』

岡山県では『世界エイズデー (12 月 1 日)』の関連事業として、エイズに関する正しい知識についての啓発活動及び夜間等の HIV 抗体検査を実施いたします。詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。

[【岡山県からのお知らせ 平成 24 年度「世界エイズデー」の実施について】](#)

2. 感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、前週よりさらに増加しました (定点あたり 9.63 → 12.59 人)。患者の増加時期は、過去 10 年で比較すると、2006/07 年シーズンに次いで早い次時期から始まっています。県内の発生状況など、詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。
3. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり患者数は、第 42 週以降増加傾向であり、過去 10 年の同時期と比較して患者が多い状態です (第 46 週 1.22 人)。細菌による上気道炎で、冬にも患者が増加します。突然の発熱と体のだるさ・咽頭痛によって発症し、口腔内に小点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。肺炎や髄膜炎などさまざまな合併症や二次疾患を起こすことがあり、注意が必要です。幼児よりも学童期の小児に多く見られ、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
4. インフルエンザは、前週より減少し (定点あたり 0.08 → 0.05 人)、県全体で 4 名の発生がありました。県内の発生はまだ散発的です。手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは、「インフルエンザ情報」をご覧ください。
5. RS ウイルス感染症の定点あたり患者数は、前週より減少したものの (定点あたり 1.19 → 0.81 人)、依然として 2003 年の調査開始以降最も多い状態がつづいています。例年、12 月から翌年 1 月に流行のピークを迎えますので、今後も県内の発生状況に注意し、感染予防に努めましょう。
6. 風しんは、全国統計で 11/5～11/11 の 1 週間に 39 名の届出があり、2012 年の累計報告数は 11 月 14 日までに 1,999 名になりました。昨年 1 年間の累積報告 (371 名) と比較して、5.4 倍になっています。
岡山県では、2012 年はこれまでに 20～40 代の男性 6 名の届出がありました。
風しんの週報への掲載は今週で終了いたしますが、ひきつづき岡山県感染症情報センターホームページで県内及び全国の発生状況をお知らせいたします。 ([岡山県感染症情報センターホームページ](#))。

◎感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、インフルエンザなど冬に流行がみられる感染症が増加しています。

手洗い・うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など、感染予防に努めて下さい。

また、かかったら他の人へうつさないよう気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診しましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

前週からの推移：：2倍以上の減少 ：1.1～2倍未満の減少 ：1.1未満の増減
：1.1～2倍未満の増加 ：2倍以上の増加

発生状況：空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

12月1日は『世界エイズデー』です。『“AIDS” GOES ON... ～エイズは続いている～』
『世界エイズデー』は世界レベルでのエイズのまん延防止と、患者・感染者に対する差別・
偏見の解消を目的に WHO（世界保健機関）が制定したもので、毎年12月1日を中心に、
世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。
厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、平成24年3月で、国内の感染者と患者を
合わせた累積報告数が2万人を越えたことが明らかになりました。さらに、エイズ患者報告数は
平成22、23年の2年連続で過去最高を更新しました。しかし、HIV検査や相談件数は減少
あるいは頭打ちであり、社会的関心の低下が懸念されています。

レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴



岡山県では、『世界エイズデー』の関連事業として、エイズに関する正しい知識等についての啓発活動及び、
保健所では夜間等の HIV 抗体検査を実施いたします。このうち備前・美作保健所の検査日には、検査当日に
結果をお知らせできる迅速検査を無料・匿名で受けることができます（要予約）。

○県保健所・支所における世界エイズデー関連検査実施日時・啓発活動等はこれから

[【岡山県からのお知らせ 平成24年度「世界エイズデー」の実施について】](#)

県保健所・支所における検査の予約は、検査実施日前日17時まで受け付けており、希望者は梅毒・性
器クラミジア・肝炎ウイルス感染症検査も同時に受けることができます。

※12月3日（月）に検査を実施する保健所・支所については、11月30日（金）の17時までに予約が必要です。

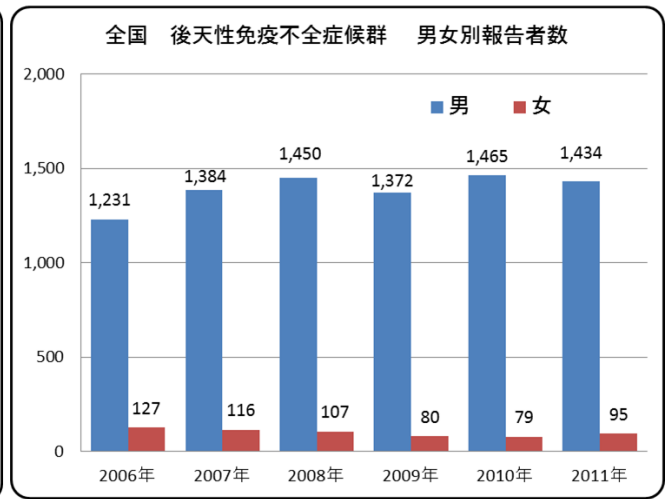
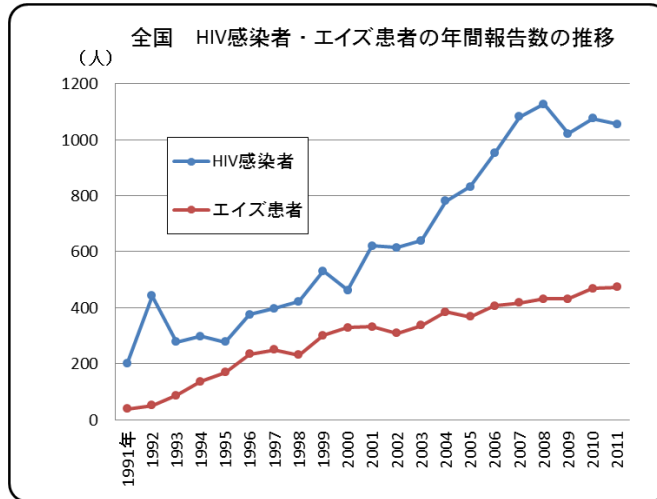
○岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ・性感染症相談、検査はこちらから

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染することによっておこる病気ですが、
HIV 感染＝エイズということではありません。

HIV に感染すると、自覚症状のない時期が数年から10年以上つづき、さらに進行すると、病気とたたかう抵抗力
（免疫）が次第に低下して、さまざまな感染症やがんなどを発症するようになります。この状態がエイズです。
従来は感染から発症までに約10年かかるといわれていましたが、最近では1年以内で免疫力が低下し、治療が必
要なレベルにいたる感染者も見られるという報告もされています。・[エイズ Q&A（エイズ予防ネット）](#)

【全国 HIV 感染者とエイズ患者報告数】



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 23 (2011) 年 エイズ発生動向より

HIV感染者 = 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届けにより無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

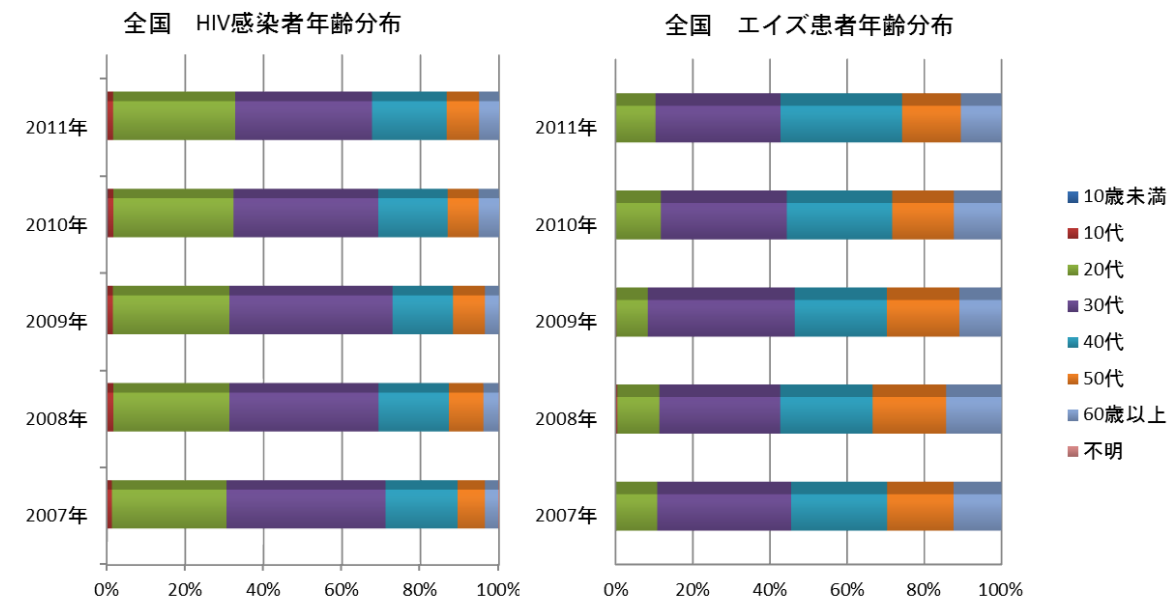
エイズ患者 = 初回報告時にエイズと診断されたもの。「いきなりエイズ」※。

(既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

※「いきなりエイズ」とは、HIV に感染した人が、何も治療を受けないままエイズを発症して、初めて HIV に感染していたことを知る状態をいいます。

【全国 HIV 感染者とエイズ患者の年齢分布】

年齢分布では HIV 感染者は 20 代、30 代に集中し、10 代の感染も見られます。エイズ患者は 30 代以上の年齢層に広く分布しており、エイズ患者のほうが HIV 感染者より年齢層が高くなっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 23 (2011) 年エイズ発生動向より

【感染経路は？予防は？】

HIV の主な感染経路は、次の 3 つです。

(1) **性行為による感染** (相手がウイルスをもっていると粘膜や傷口から感染します。)

2011 年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 19.5%、同性間の性的接触が 68.4% で、性的接触によるものは合わせて 87.9% を占めています。また、日本国籍男子の主な感染経路は、いずれの年齢階級においても同性間性的接触の割合が最も高くなっています。

(2) **血液による感染** (注射の回し打ちなど)

(3) **母親から赤ちゃんへの母子感染** (妊娠中母体内で、また出産、授乳時に)

学校や職場など、ふだんの生活では感染しないことがわかっています。唾液・汗・涙などでは感染することはありません。最大の感染予防法は、コンドームを正しく使用するなどの Safer Sex (より安全な性行為) を実行することです。

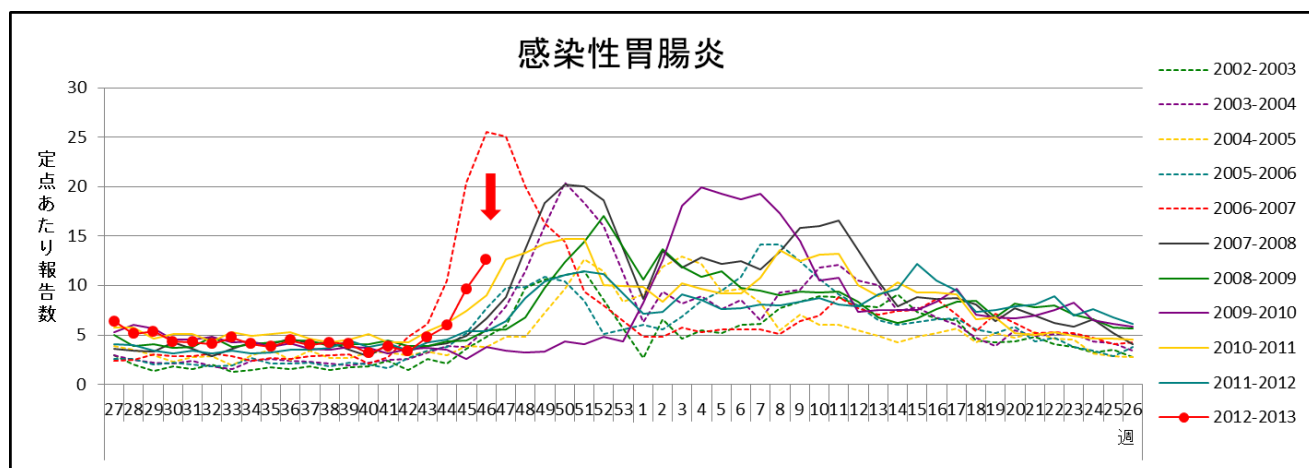
◇次週、第 47 週週報で岡山県の AIDS 発生状況をお知らせします。

今週の注目感染症

2. 感染性胃腸炎

○岡山県内の患者報告数は 680 名（定点あたり 12.59 人）で、患者が増加しました。

○感染性胃腸炎による今シーズン初めての学級閉鎖が、岡山市中区の幼稚園 1 施設でありました。（11月12日）



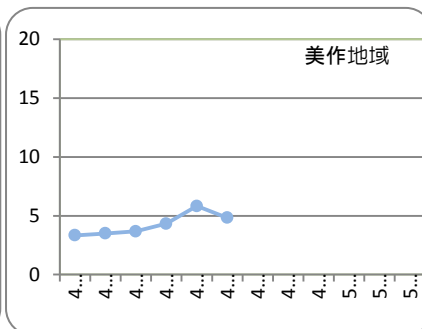
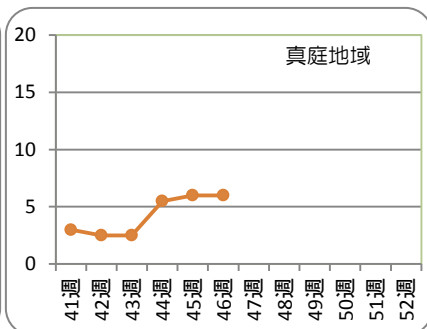
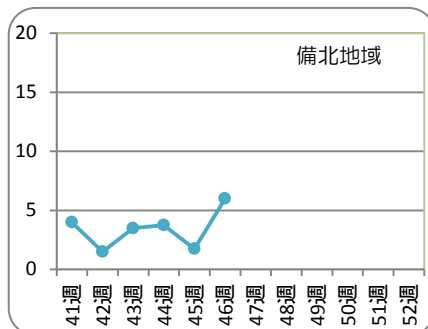
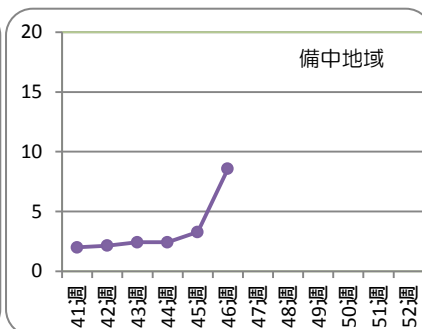
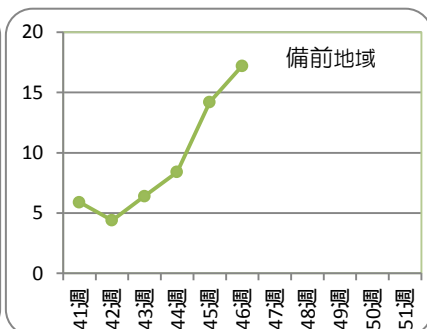
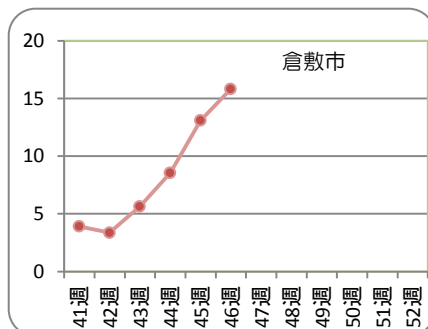
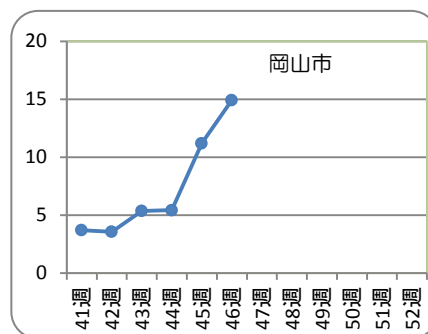
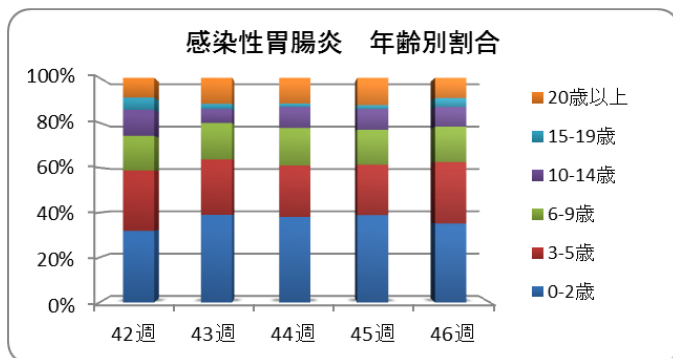
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週～翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、患者数がさらに増加しました（定点あたり 9.63 → 12.59 人）。今シーズンは、大きな流行になった 2006/07 年シーズンに次いで、流行の立ち上がり早い時期から始まっています。

地域別では岡山市（11.21 → 14.93 人）、倉敷市（13.09 → 15.82 人）、備前地域（14.20 → 17.20 人）など県南部で患者が増加しています。患者年齢は 1 歳以下の乳幼児が 25% で最も多く、5 歳以下の幼児で 62% を占めています。今後、本格的な流行時期を迎え、さらに患者の増加が懸念されますので、手洗い・うがいを励行するなど感染予防に努めて下さい。[Qノロウイルスに関する Q&A について\(厚生労働省\)](#)

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

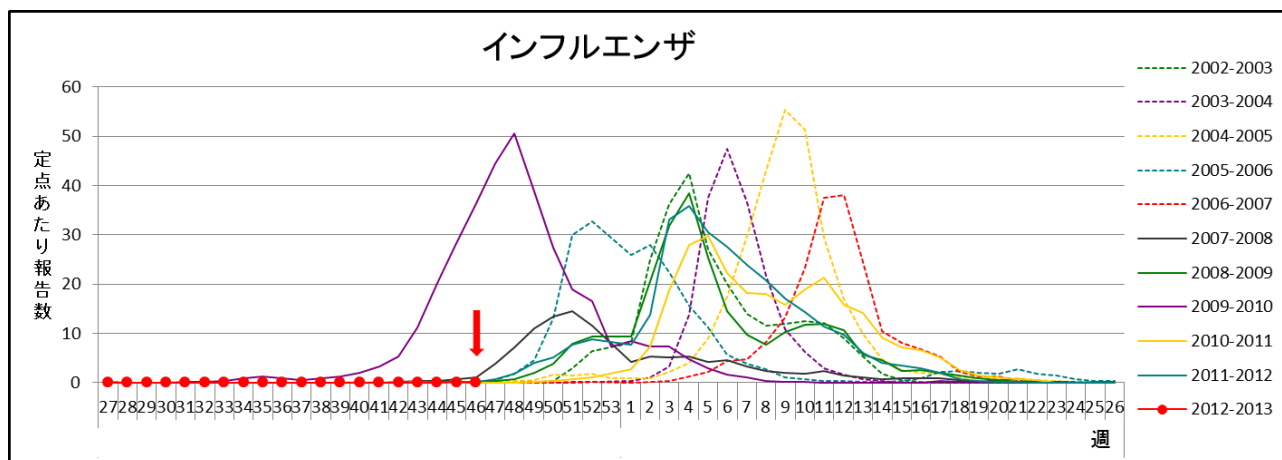
➤ 年齢別・地域別発生状況



インフルエンザ情報 2012 年 第 46 週 (11 月 12 日 ~ 11 月 18 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 4 名の発生がありました(84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業、インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域で各 1 名の発生がありました。(定点あたり 0.08 → 0.05 人)。患者の年齢は 2 歳が 1 名、10~14 歳が 1 名、30 代が 1 名、50 代が 1 名であり、地域別、年齢別にも発生はまだ散発的です。患者数は前週より減少していますが、今まで発生のなかった備中地域からも患者報告があり、発生地域は県南を中心に徐々に拡大しています。本格的な流行はまだ始まっていませんが、手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防を心がけましょう。

全国集計第 45 週 (11/5~11/11) 速報値によると、全国では定点あたり 0.11 人(前週 0.07 人)であり、各県の発生はまだ散発的です。また、全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 82 件、AH1pdm09 型が 10 件、B 型が 4 件であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

インフルエンザがうつらないようにするには

1. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。

2. 予防接種も重要です。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型も変わるので、毎年、定期的に接種することが望まれます。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大事です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット※を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

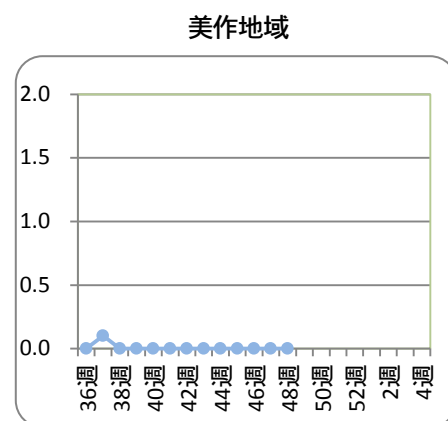
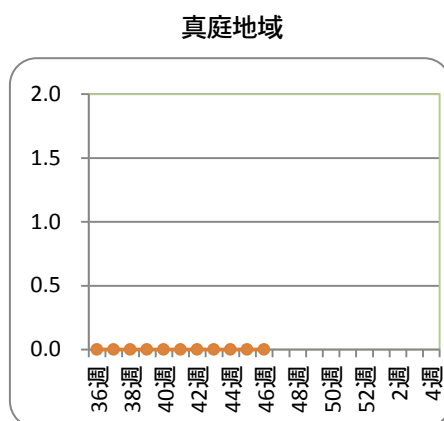
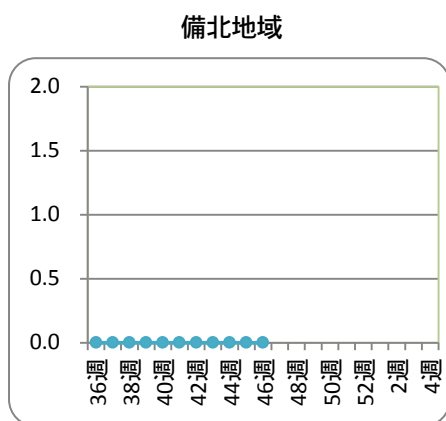
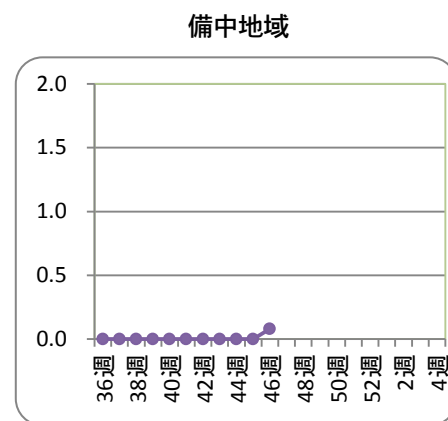
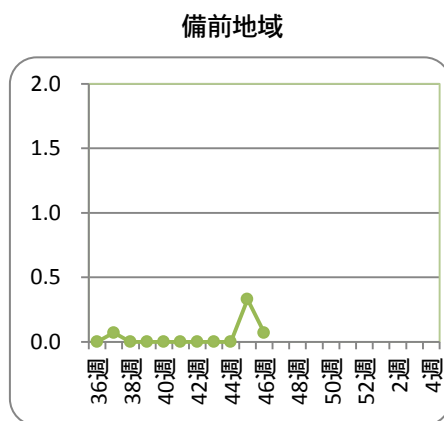
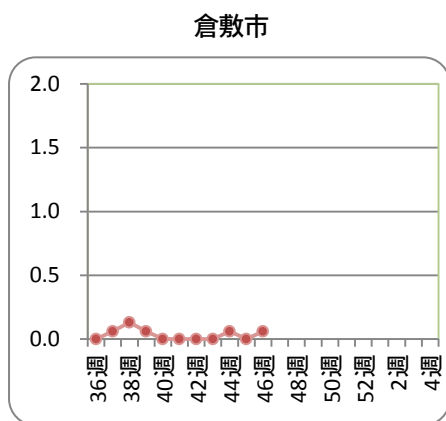
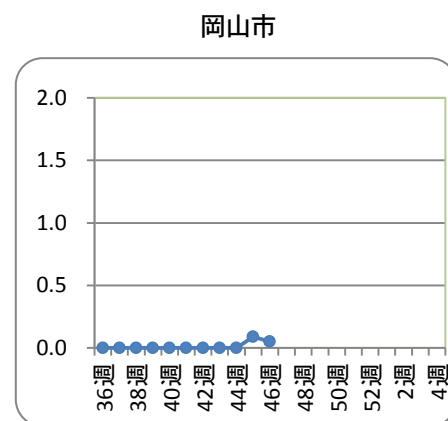
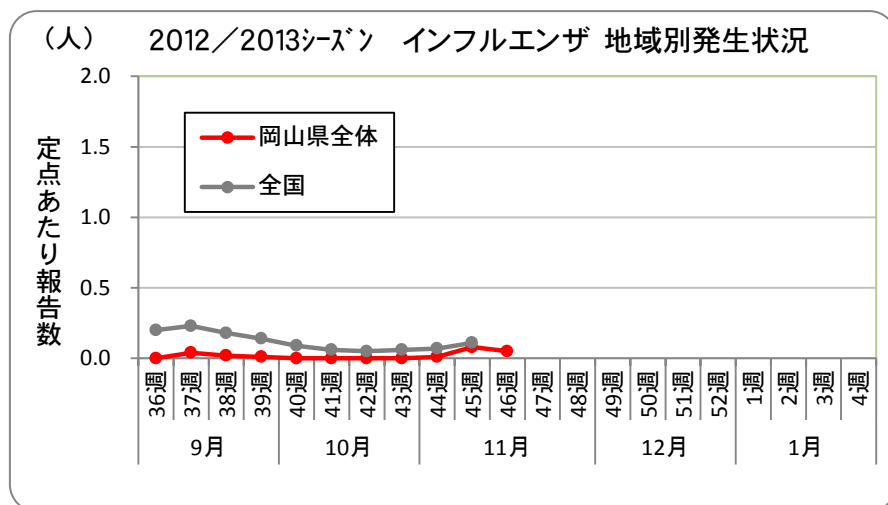
※せきエチケット：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

第46週（11/12～11/18） 前週からの推移（単位：人）

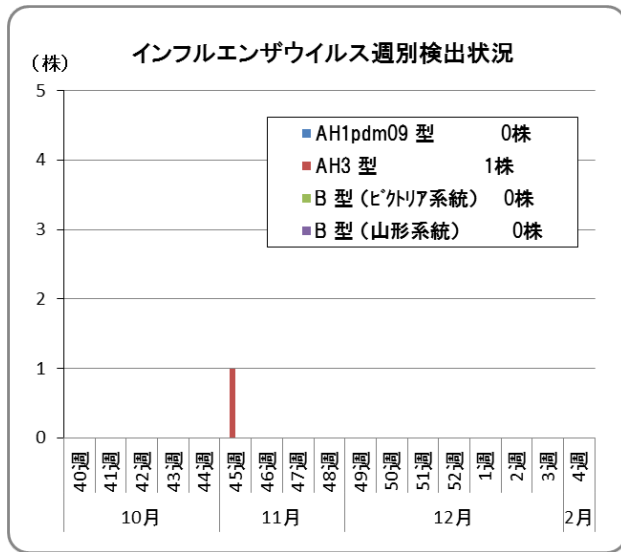
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	4		備 中	患者数	1	
	定点あたり	0.05			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	1		備 北	患者数	—	
	定点あたり	0.05			定点あたり	—	
倉敷市	患者数	1		真 庭	患者数	—	
	定点あたり	0.06			定点あたり	—	
備 前	患者数	1		美 作	患者数	—	
	定点あたり	0.07			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 1.1～2倍未満の減少 1.1未満の増減
1.1～2倍未満の増加 2倍以上の増加



➤ インフルエンザウイルス検出状況 第46週 (11/12～11/18)

第46週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありません。



➤ インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第46週(11/12～11/18)

第46週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありません。

1. 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

[illegible]

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2. 臨時休業施設数の内訳

第 46 週：0 施設

累計：1 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－

保健所別報告患者数 2012年 46週 (2012/11/12～2012/11/18)

2012年11月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	4	0.05	1	0.05	1	0.06	1	0.07	1	0.08	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	44	0.81	20	1.43	7	0.64	2	0.20	1	0.14	1	0.25	2	1.00	11	1.83
咽頭結膜熱	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	16	1.14	23	2.09	1	0.10	11	1.57	—	—	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	680	12.59	209	14.93	174	15.82	172	17.20	60	8.57	24	6.00	12	6.00	29	4.83
水痘	65	1.20	34	2.43	12	1.09	8	0.80	—	—	—	—	7	3.50	4	0.67
手足口病	14	0.26	14	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	32	0.59	12	0.86	9	0.82	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.50	8	1.33
百日咳	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	9	0.17	3	0.21	1	0.09	4	0.40	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	—	—	3	0.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	9	1.80	3	3.00	4	4.00	—	—	—	—	2	2.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 46週

(2012/11/12～2012/11/18)

2012年11月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	4	0.05	1	0.05	1	0.06	1	0.07	1	0.08	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	3	0.06	1	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	16	1.14	23	2.09	1	0.10	11	1.57	－	－	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	680	12.59	209	14.93	174	15.82	172	17.20	60	8.57	24	6.00	12	6.00	29	4.83
水痘	65	1.20	34	2.43	12	1.09	8	0.80	－	－	－	－	7	3.50	4	0.67
手足口病	14	0.26	14	1.00	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	0.02	－	－	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	9	0.17	3	0.21	1	0.09	4	0.40	1	0.14	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	3	0.25	－	－	3	0.75	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第46週 2012/11/12～2012/11/18)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	44	7	11	20	-	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	-	1	2	3	2	4	11	9	7	5	7	14	1	-
感染性胃腸炎	680	5	40	125	69	85	55	46	36	28	21	22	60	27	61
水痘	65	1	4	15	11	6	7	9	3	3	2	3	1	-	-
手足口病	14	-	1	3	5	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	32	3	16	12	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	-	-	-	-	1	1	2	2	-	1	1	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	9	-	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

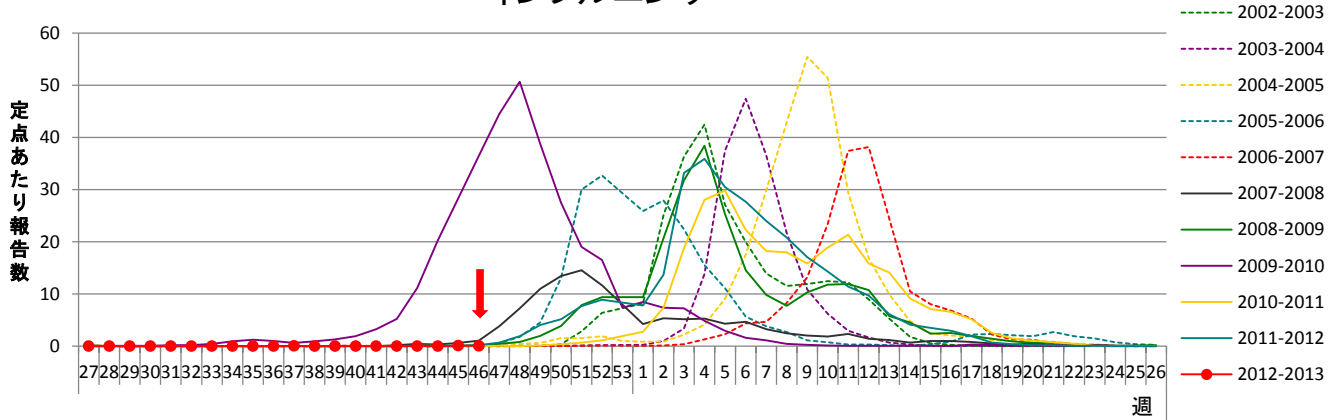
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

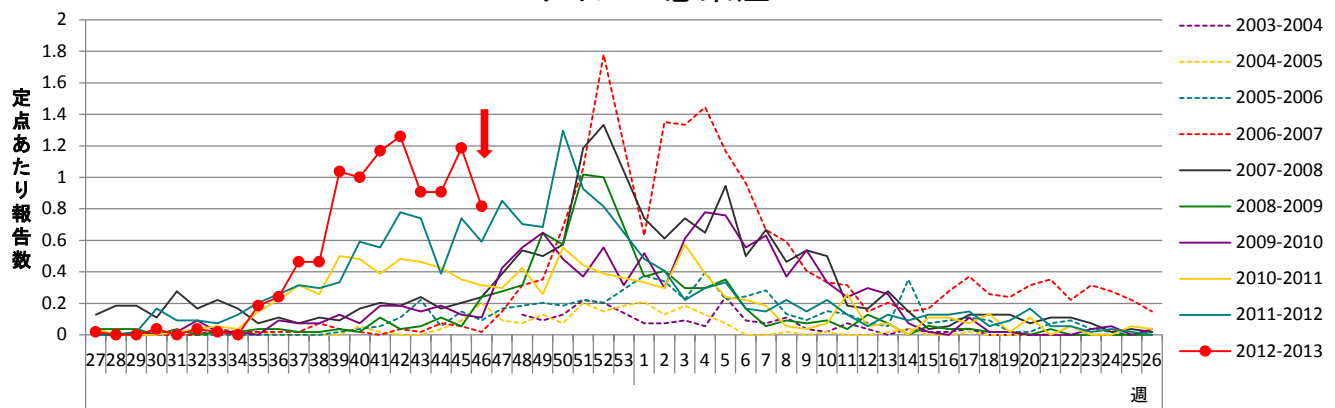
2012 年 46 週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	430	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	156	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	3	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	1	25	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	11	11	ウイルス性肝炎*3	-	7	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	15	15	ジアルジア症	-	2	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	7	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	風しん	-	6	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

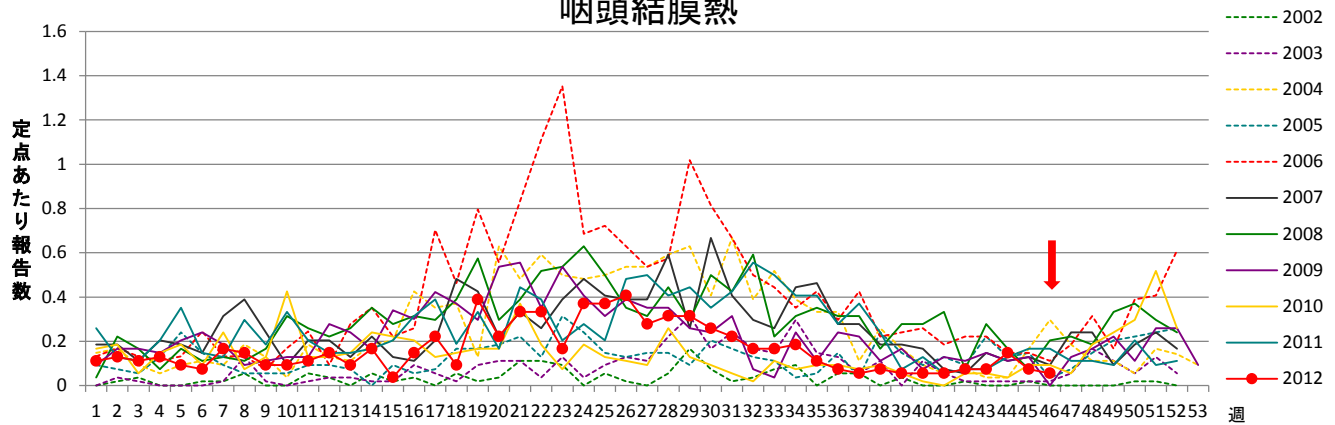
インフルエンザ



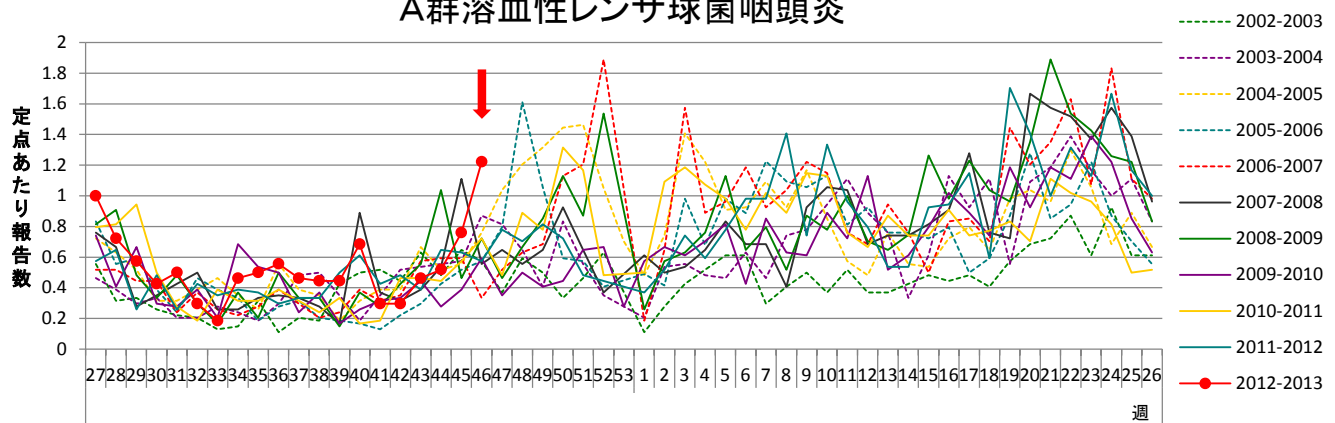
RSウイルス感染症



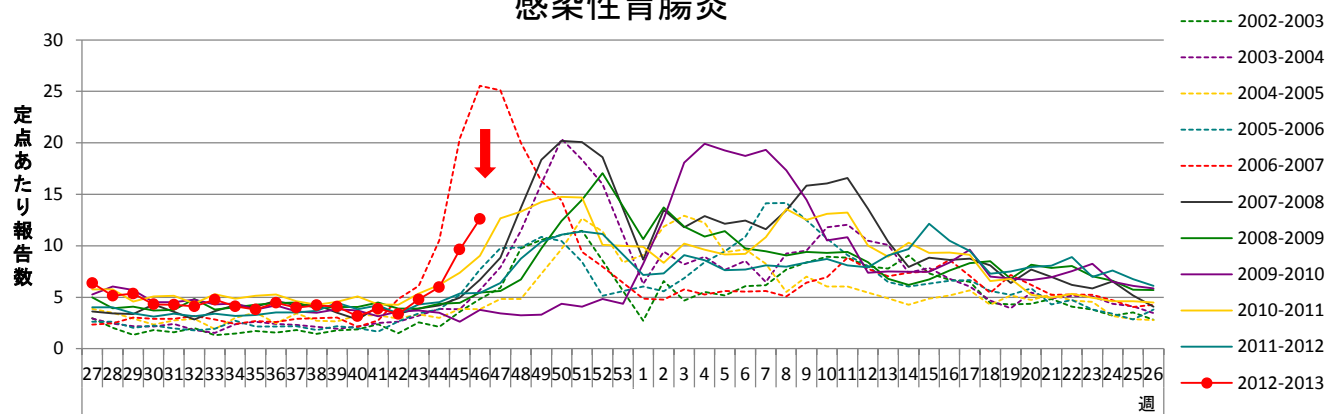
咽頭結膜熱



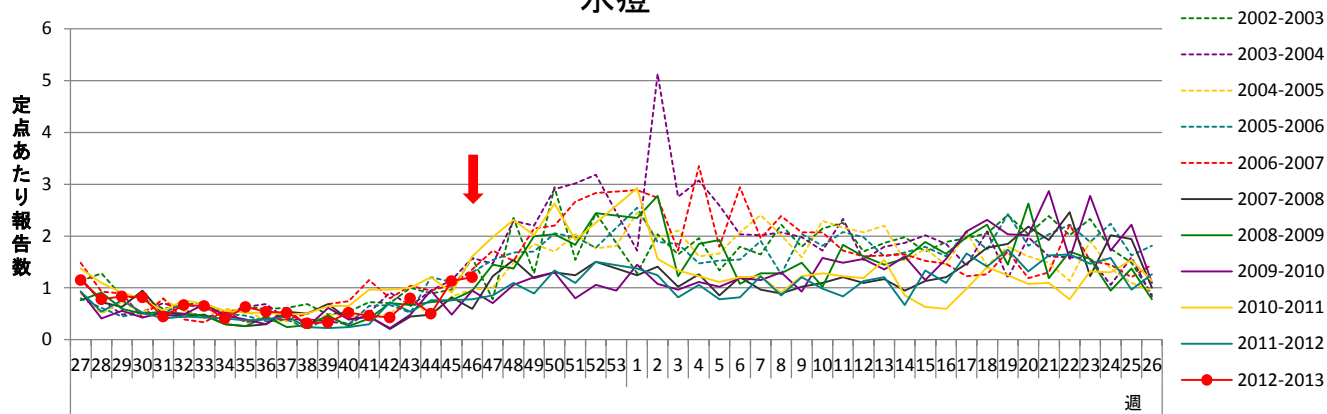
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



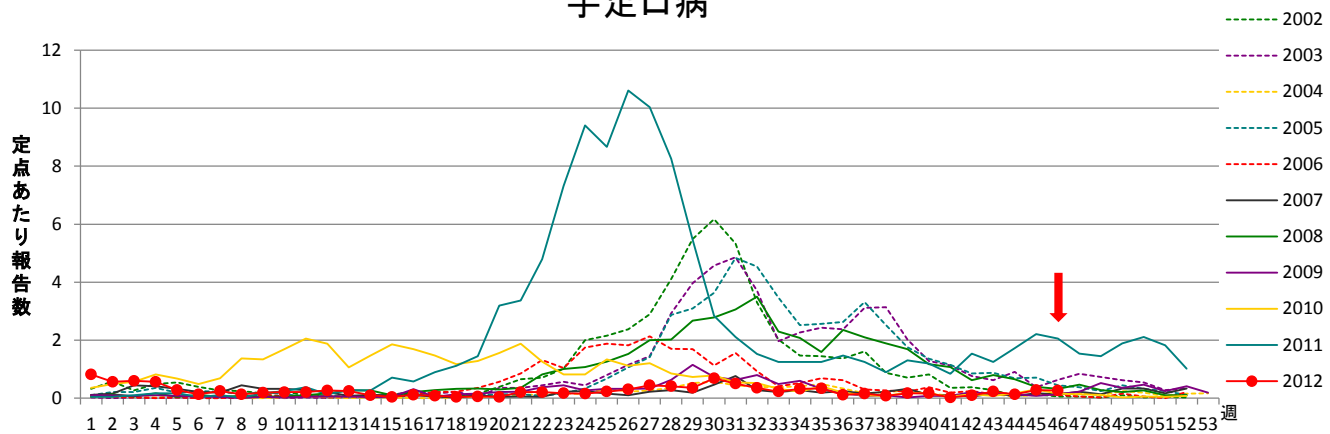
感染性胃腸炎



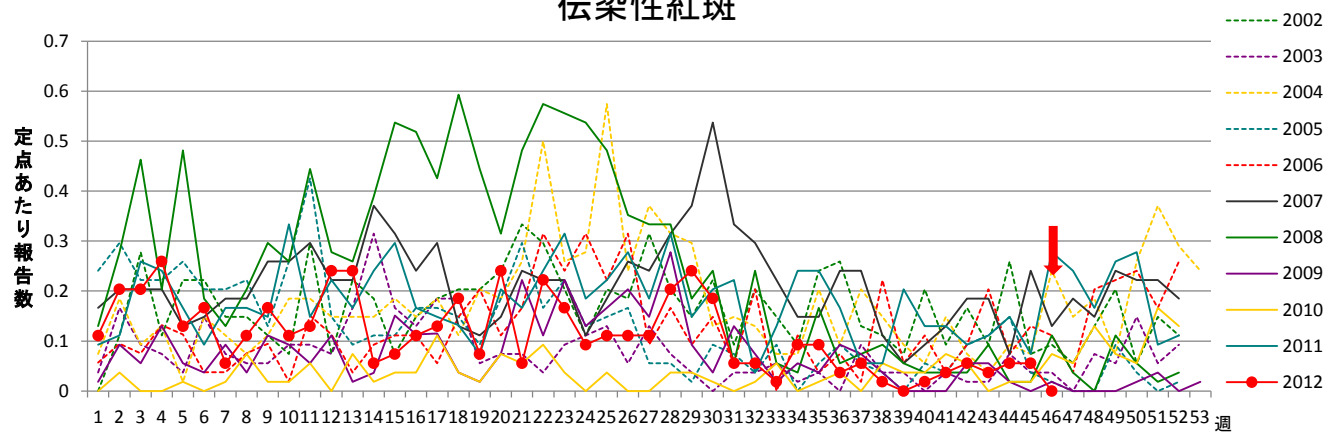
水痘



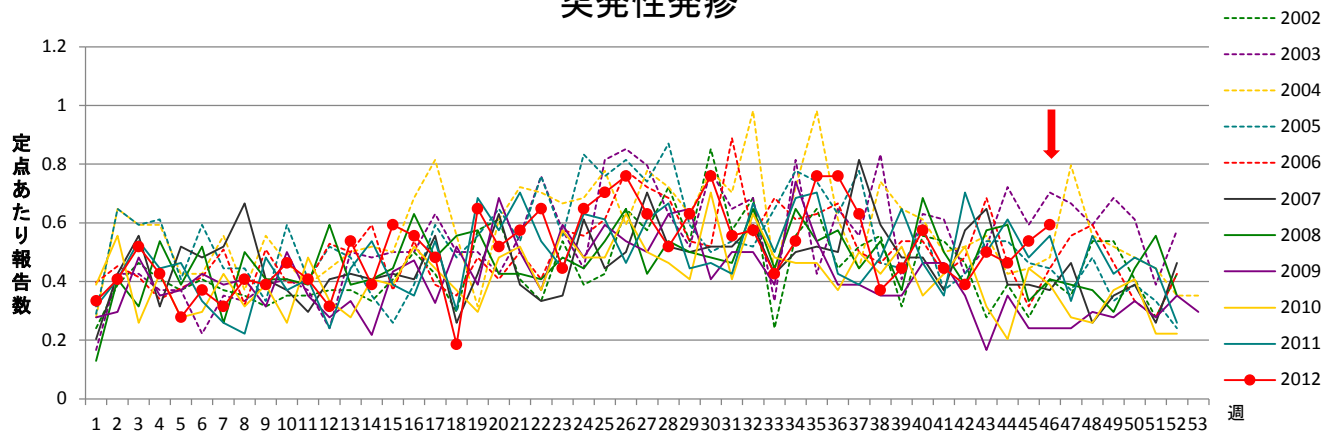
手足口病



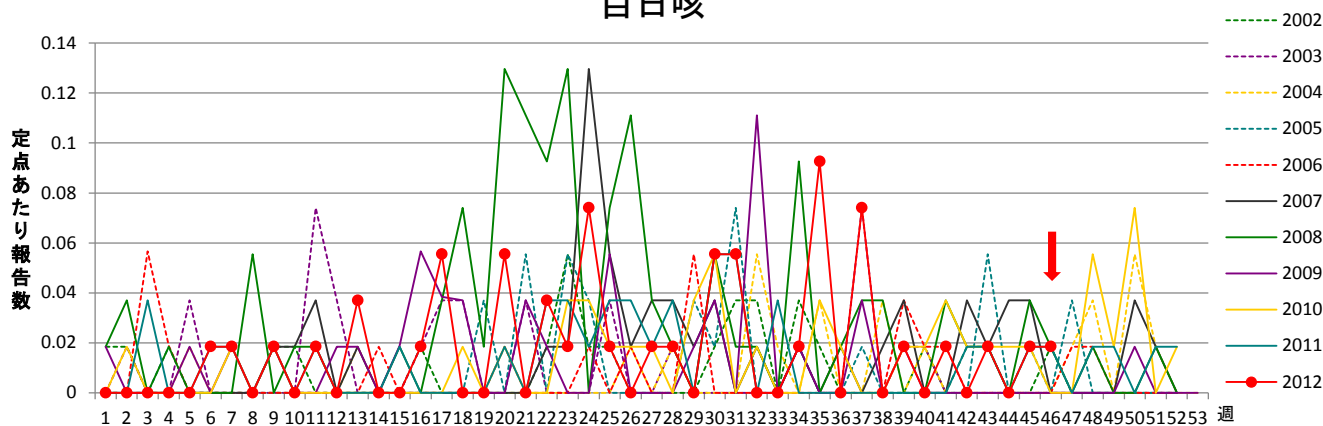
伝染性紅斑



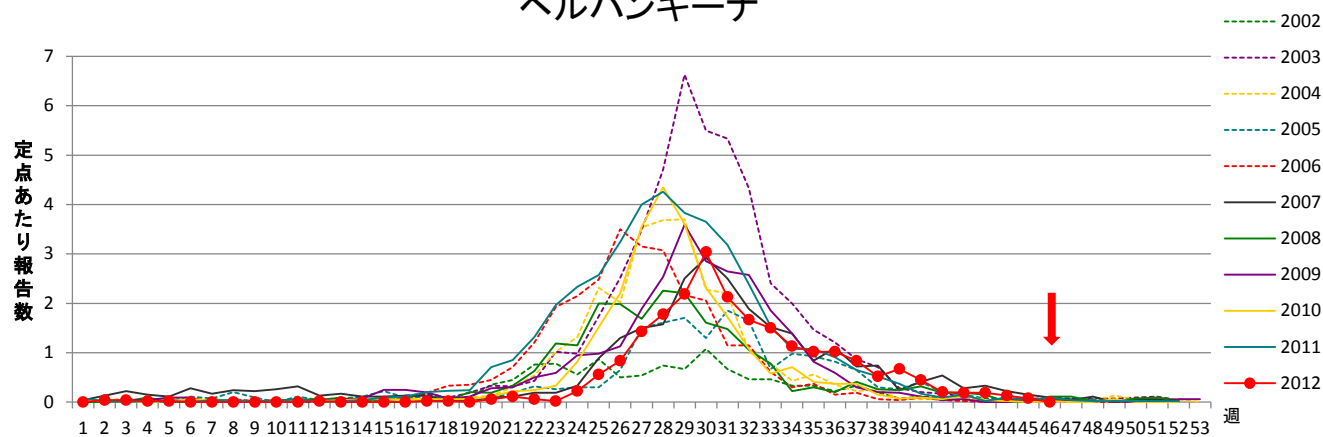
突発性発疹



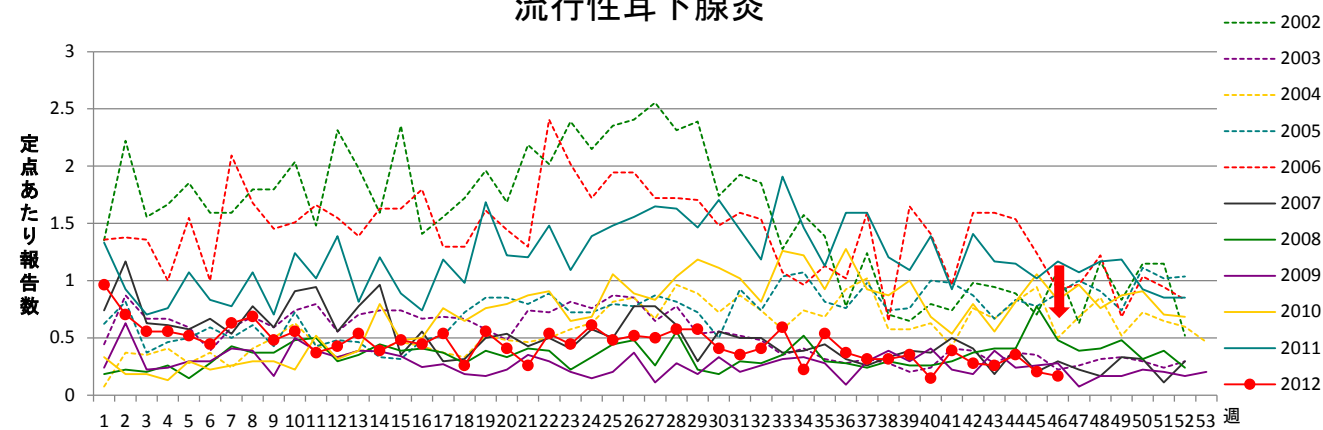
百日咳



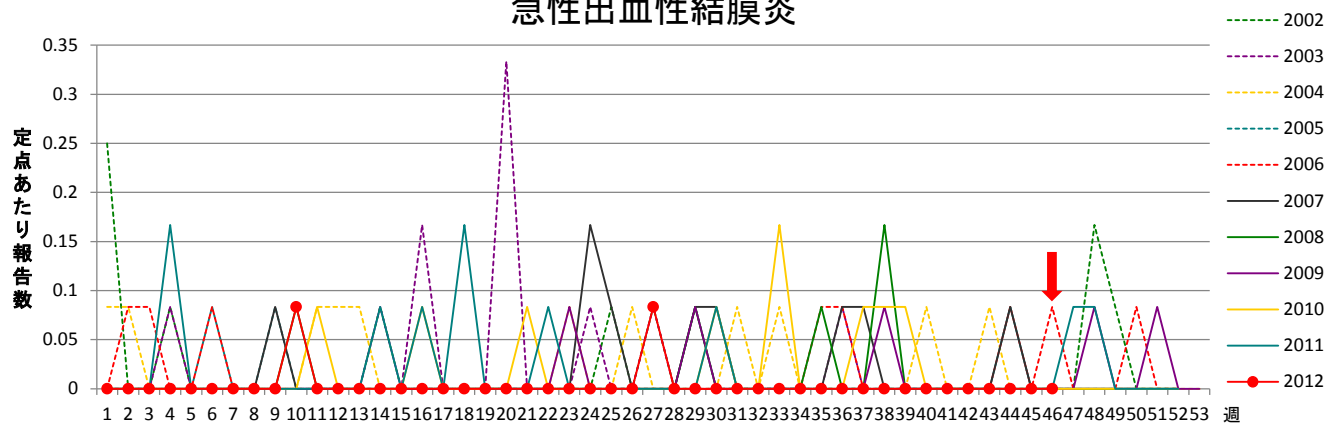
ヘルパンギーナ



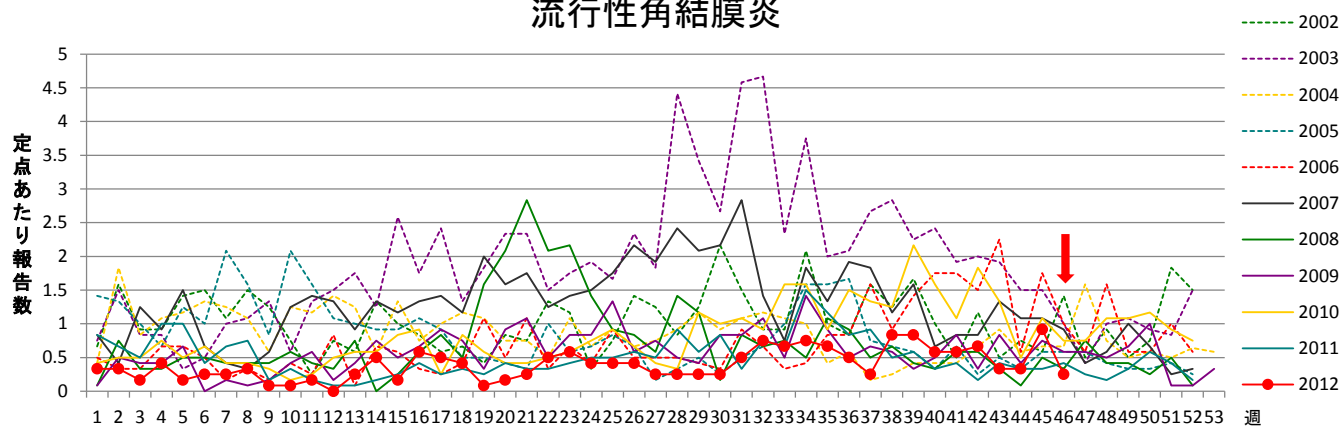
流行性耳下腺炎



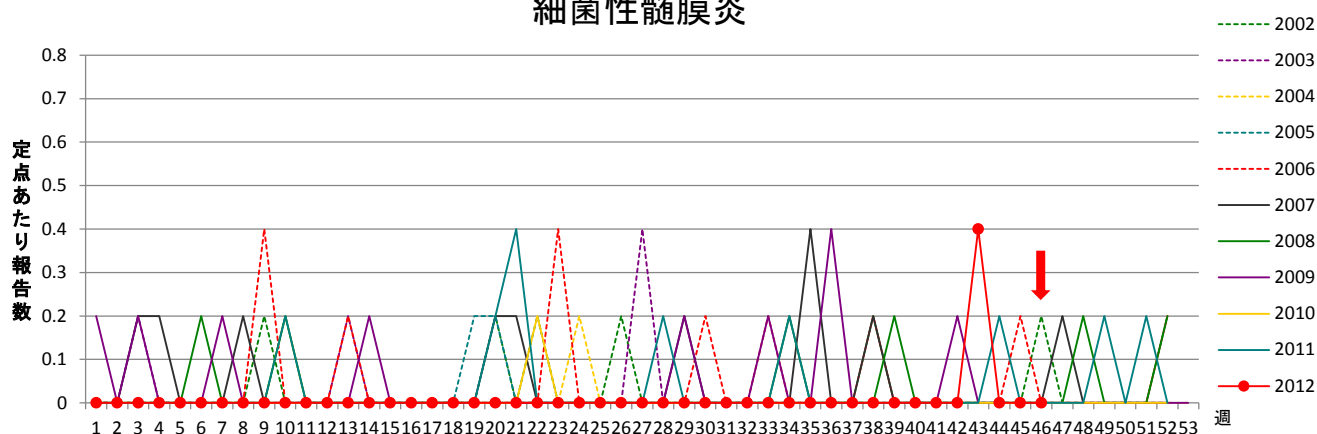
急性出血性結膜炎



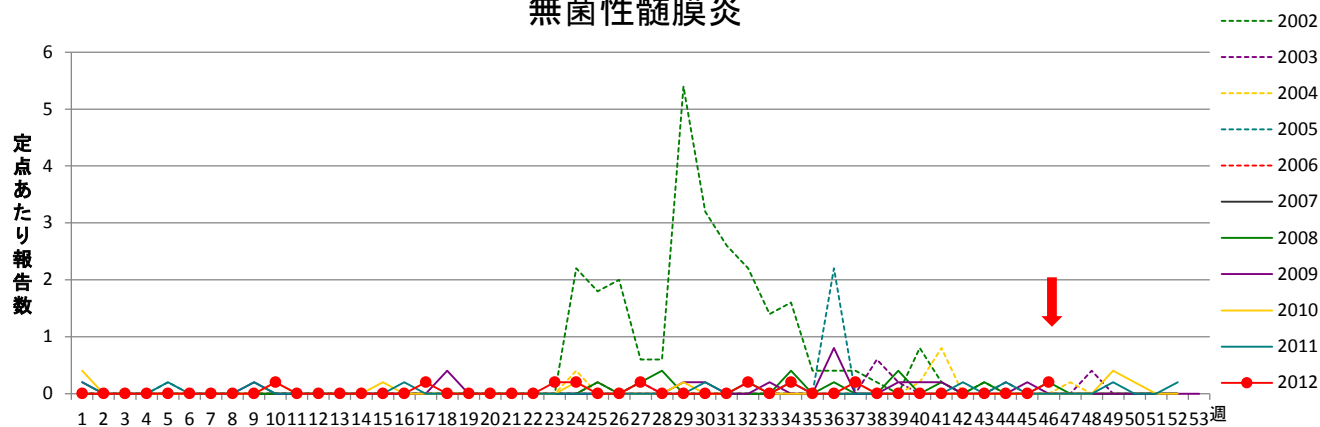
流行性角結膜炎



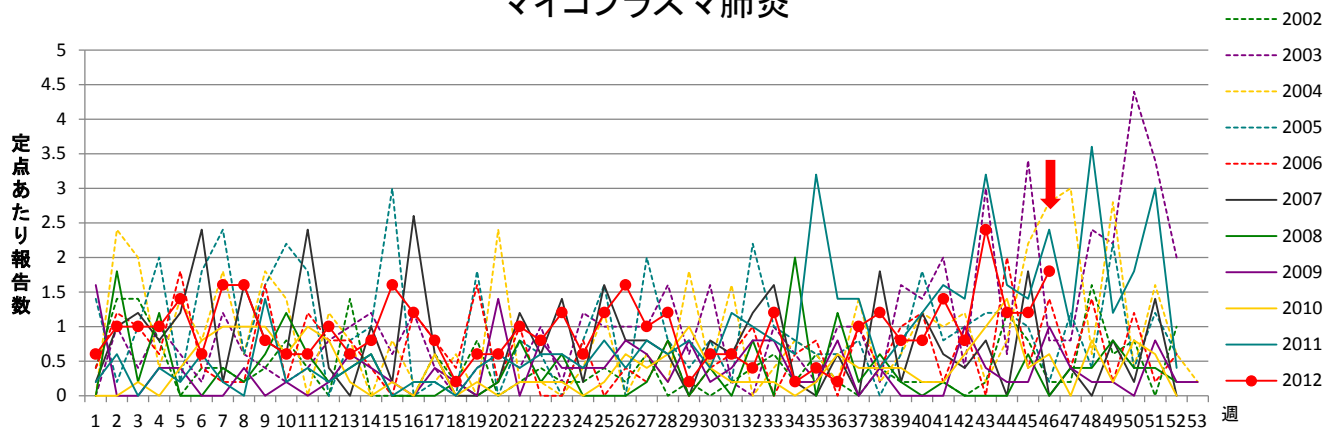
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

